

今後の取り組み

2022年6月22日

定時株主総会

株式会社 **アールエス物流**

世界経済

コロナ影響、高インフレ、地政学リスク等により成長率鈍化（GDP：2021年6.2% ⇒ 2022年3.0%）

電子部品関連

半導体出荷：スマホ、PC等の出荷減が見込まれるが、IoTの普及、DX進展、自動車の電子化等により成長持続（2021年25.0% ⇒ 2022年7.0%）

自動車販売：新車購入需要は強いが、部品不足が制約に（2021年8.0% ⇒ 2022年7.0%）

スマホ出荷：地政学リスク、コロナの影響等で一時的に減速（2021年6.1% ⇒ 2022年±0.0%）

消費物流関連

コロナに伴う在宅生活様式の定着により食品の宅配等は高水準を維持しているものの、若干のマイナス。引続きEC通販需要は緩やかに拡大

物流業界の状況

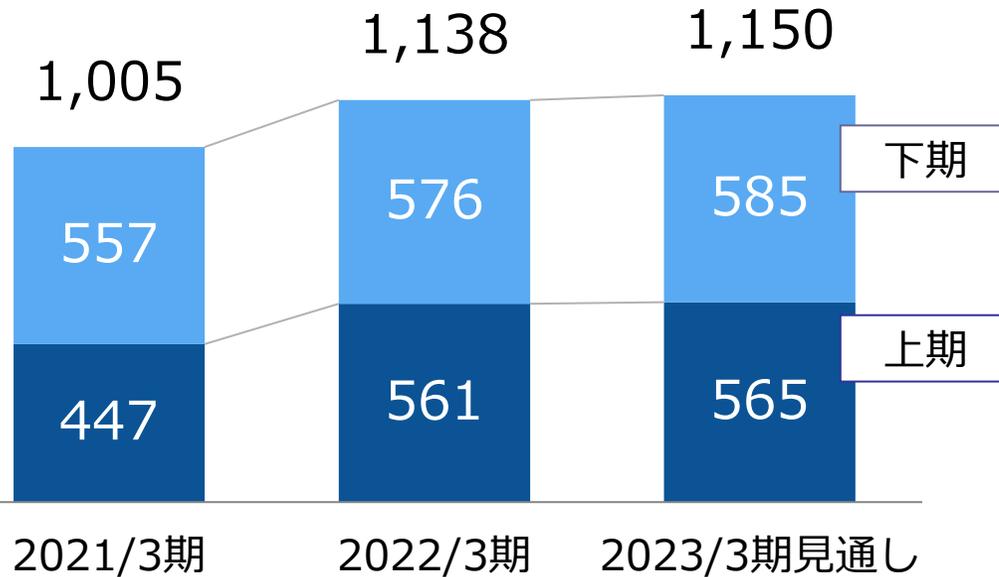
緊急航空貨物は減、需給バランスは年後半から徐々に緩和方向か。海上輸送は、米国西海岸港湾の労使交渉の結果次第では、混乱続く懸念。

2023/3期業績見通し (連結)

(単位:百万円)	2021/3期	2022/3期		2023/3期	
	実績	実績	増減率	見通し	増減率
売上高	100,562	113,814	+13.2 %	115,000	+1.0 %
営業利益	4,725	6,021	+27.4 %	5,800	△3.7 %
経常利益	4,926	6,166	+25.2 %	5,550	△10.0 %
親会社株主に帰属 する当期純利益	2,900	3,598	+24.1 %	3,250	△9.7 %

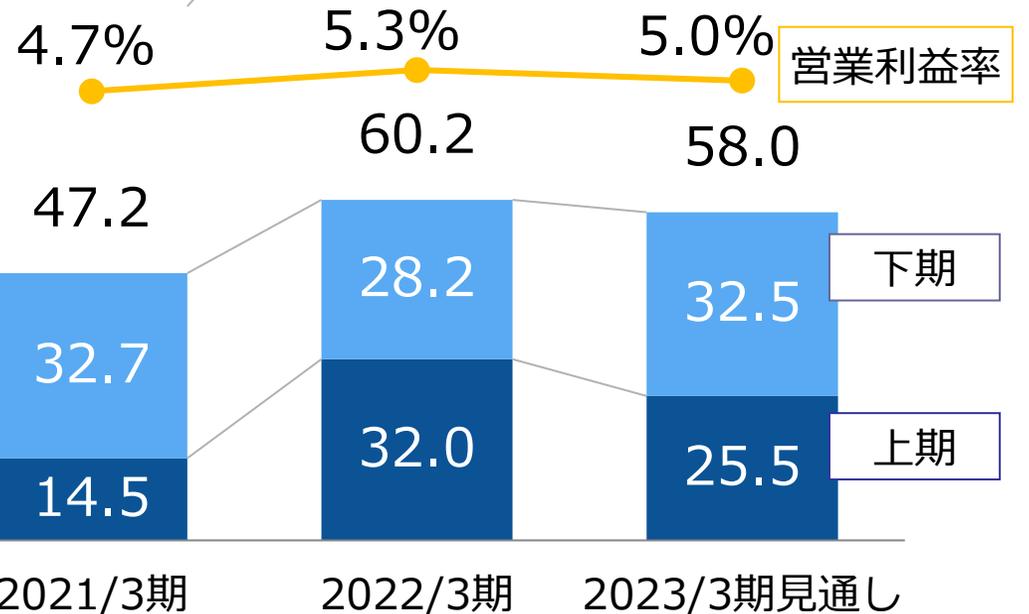
■ 売上高

(単位:億円)



■ 営業利益

(単位:億円)



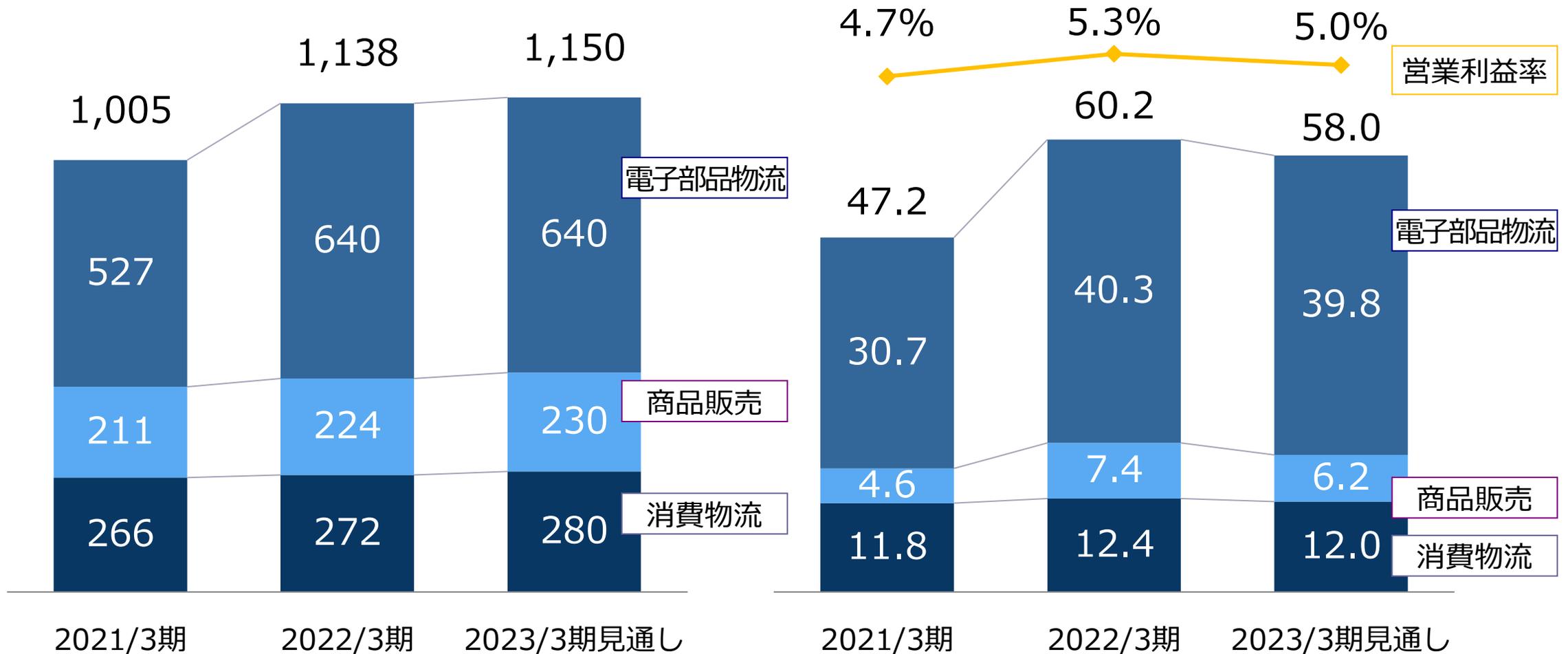
2023/3期セグメント情報 (連結)

■ 売上高

(単位：億円)

■ 営業利益

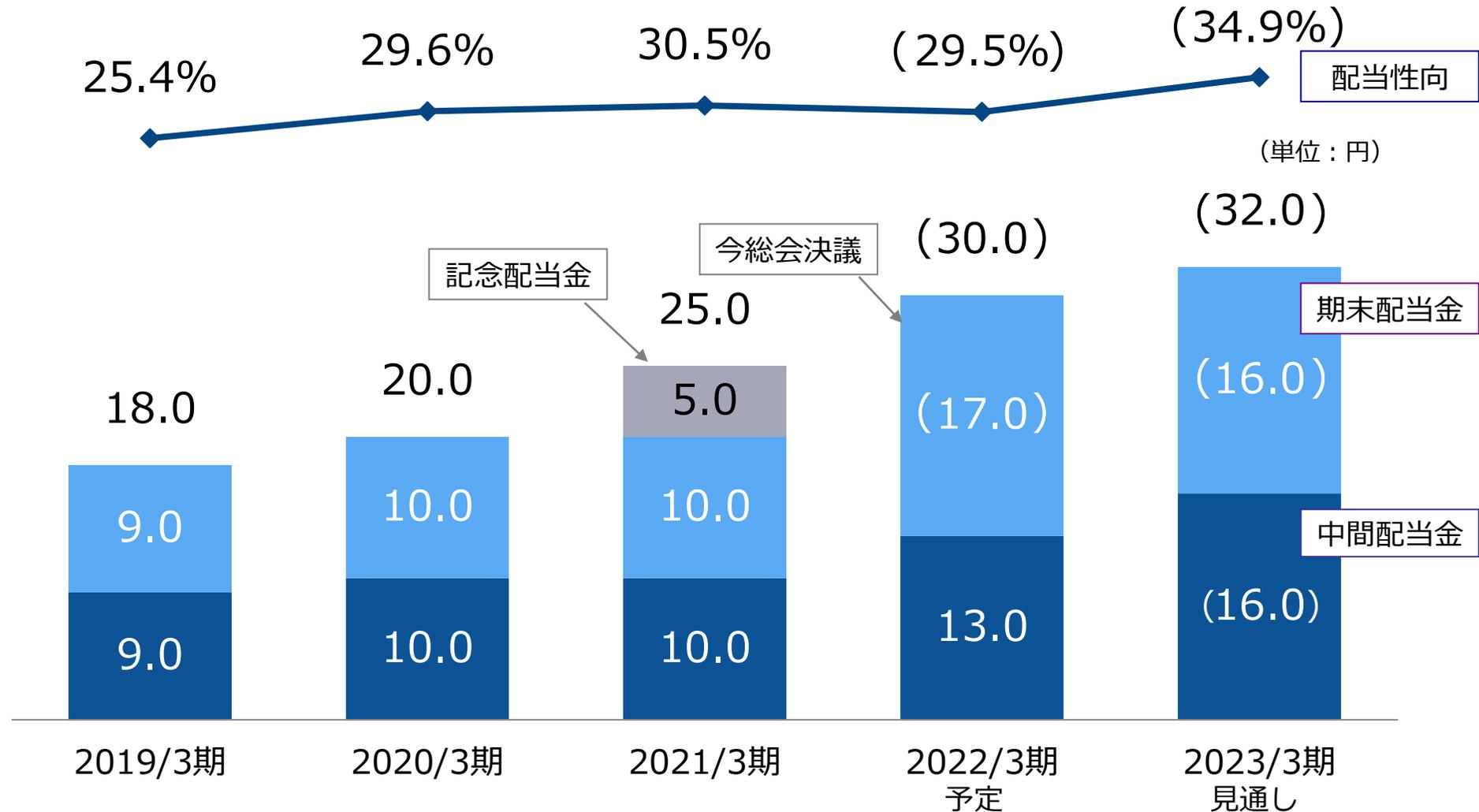
(単位：億円)



※各セグメントの売上高・営業利益は連結消去後の数値です

2023/3期配当計画

- 投資と株主還元のバランスを取り、安定的に増配を目指す
- 配当性向は概ね30%~40%の範囲とする



第5次中計方針

地球と社会にやさしく・最適物流の追求と進化

GTB (Get the Business)
市場と商品の拡大

- ① ビジネス領域の拡大
- ② グローバルネットワークの充実
- ③ 協創・提携体制の拡充

GTP (Get the Profit)
間・直の生産性向上

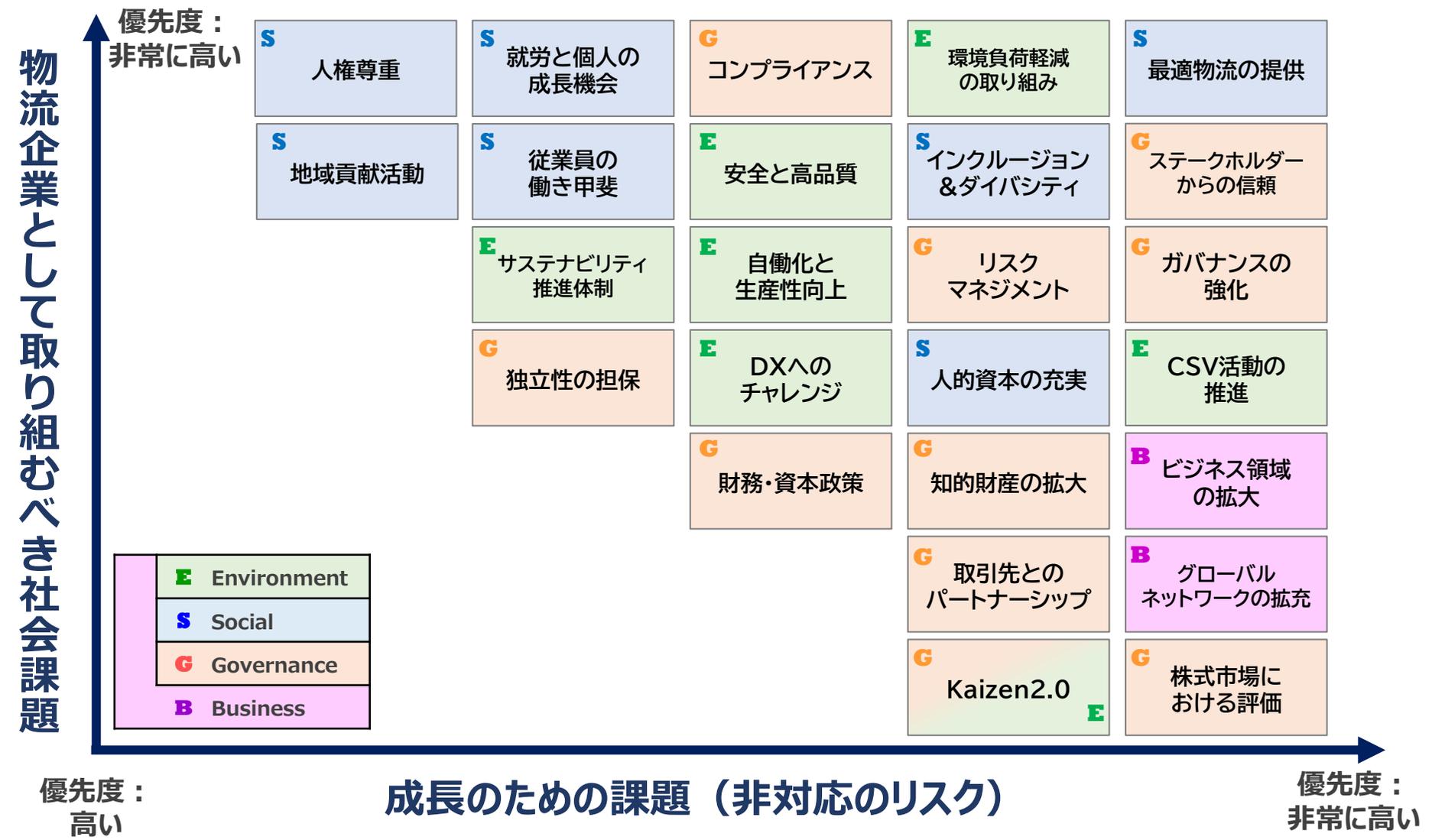
- ① 省人化・自動化の推進
- ② 戦略投資の拡大と確実な刈り取り
- ③ DXへチャレンジ

GTC (Get the Confidence)
サステナビリティ

- ① ESG対応の強化
- ② 安全・高品質の維持確保
- ③ 非財務資本の維持・強化

マテリアリティ

優先課題（社会課題と成長のための課題）マトリクス



サステナビリティ推進の取り組み

E 環境

CO2排出量削減に向け、事業を通じて貢献

- 共同保管・共同集配の拡充
- ハイブリッド車・EV車の導入
- 梱包設計の変更提案による積載効率向上
- 省力化、省電力化のマテハン機器の研究、導入
- リサイクルパレットの使用



S 社会

- インクルージョン&ダイバーシティ：特に女性活躍推進
- 従業員の働き甲斐：従業員満足度の向上、健康経営
- 就労と個人の成長機会：人財の確保・育成

G ガバナンス

ガバナンス向上のため、独立社外取締役を過半数へ

- アルプスアルパイン(株)の連結子会社から持分法適用会社へ異動予定

事業拡大の方向性【電子部品物流】

電子部品物流のプラットフォームを基軸にさらに拡大

電子部品物流のプラットフォーム 共同保管＋共同集配

国内1,900社 7,500カ所/日の実績

経済効率

環境対応

- 顧客ごとの最適物流
- Global One Channel Service
- 高い物流品質

+

- 更なるネットワーク拡大
- デジタル化・自動化
- 包装の最適化と輸送モード

エリアの拡大

- 国内：主力拠点増強＋西日本・九州
- 海外：既存エリア強化(北米・印・東欧他)
＋新規（フィリピン・インドネシア）

顧客・市場の拡大

- 車載・産機関連（車載比率30⇒35%へ）
- 非日系顧客開拓の推進
- 輸出入サービス充実/顧客範囲拡大
- 新規市場（流通サービスとともに検討）

サービスの拡充

- 車載・産業機器向けメニュー多様化
- 流通加工の拡大
- 環境負荷情報の提供
- SCMサポートメニュー拡大
- 倉庫立上げLT短縮

主要拠点の保管能力の拡大

● 横浜に新倉庫を建築

2021年11月着工

2022年9月竣工予定

倉庫面積：9,000㎡

神奈川県横浜市（横浜営業所敷地内）

ベストな条件が揃った日は100%太陽光

発電で運営可能

● 名古屋に新倉庫を建築

2023年2月着工予定

2024年1月竣工予定

倉庫面積：33,000㎡

愛知県小牧市

● 埼玉県・加須2期倉庫の検討



横浜新倉庫 完成予想図



名古屋新倉庫 完成予想図

各国におけるロジスティクス事業の強化

欧州

- 車載向け物流効率化のための拠点網の再編
- ハンガリー中心に東欧拡販へ、代理店協業

北米

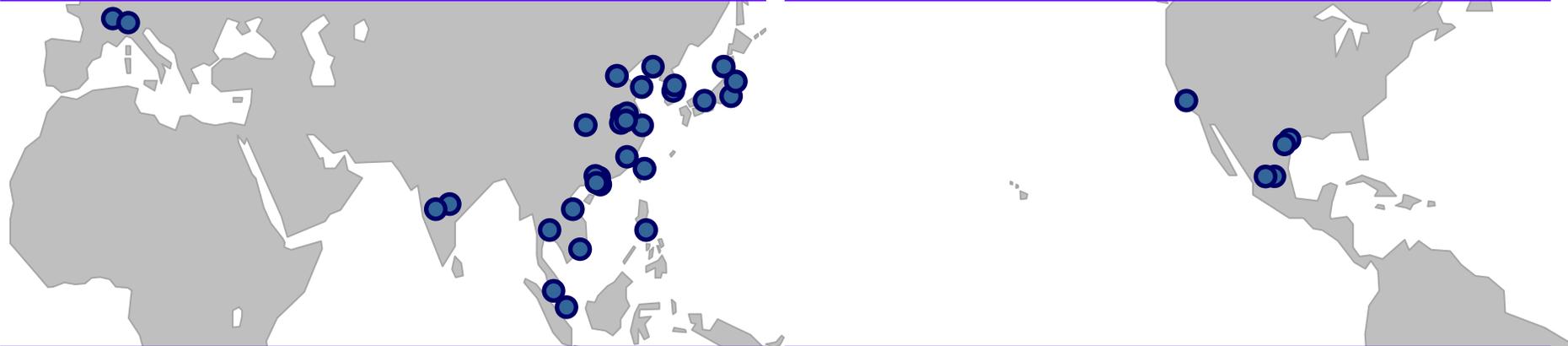
- 米国車載拡販のためのスペース拡充
- 米西海岸拡販のためナショナル営業力強化
- 米墨越境輸送ルート拡充
- メキシコ協業に向け新拠点開設

中国

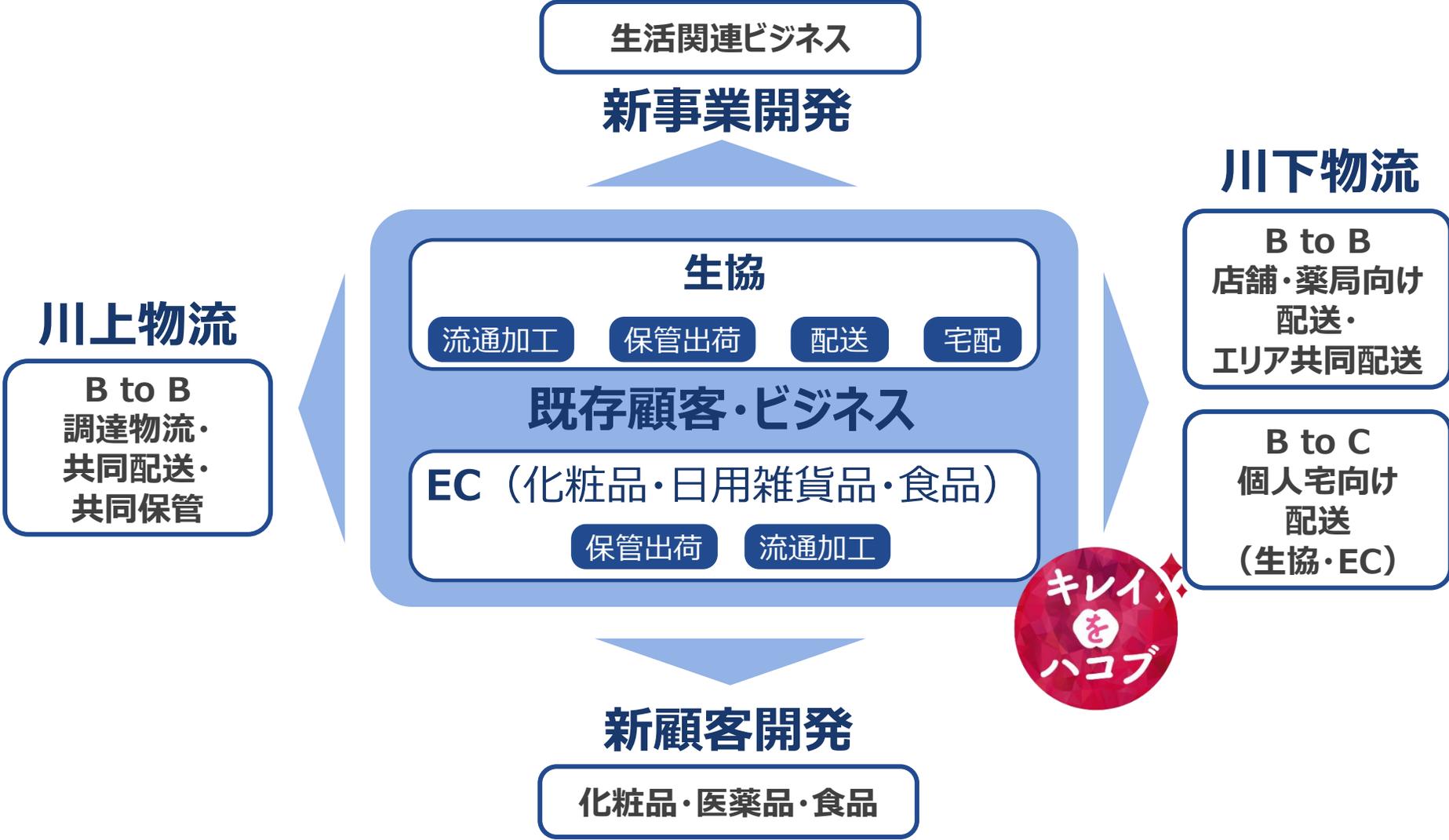
- 内需拡大見据え、内貨倉庫拡充
- 非居住者Biz需要増に向け、保税倉庫を拡張
- 幹線輸送網と拠点輸配送の競争力強化のため
自社便を増加

アジア

- タイ：電子部品用の高品質倉庫を拡張
- ベトナム・マレーシア：保税倉庫拡張
- インド：国内拠点展開と幹線輸送網整備
- 航空輸出事業強化のための自営化推進



共同物流をエンジンにB to B 物流拡販へ



生産性向上の取り組み

貨物特性に合わせた機器・システムの横展開と開発

【電子部品物流】

- 自動ラベル貼付機
(自社開発)



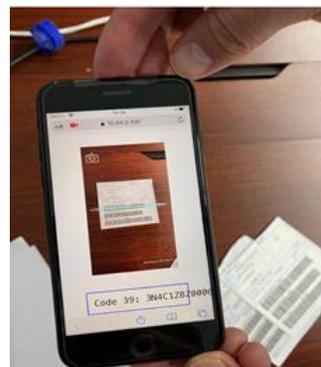
- 可動式高層ラック



- カートン入出庫搬送機



- 画像認識入庫検収システム
(特許出願中)



【消費物流】

- AGV x ソーター



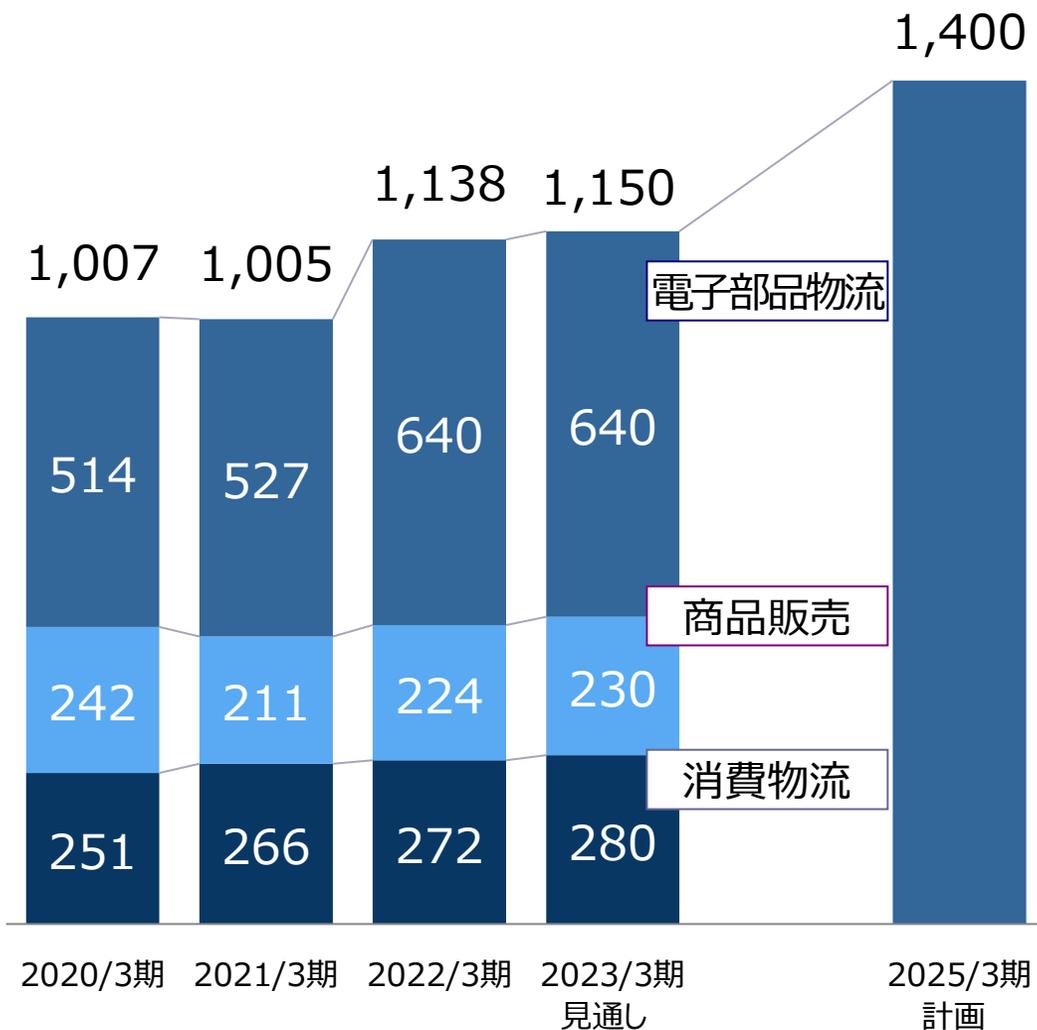
- 物流ラボ開設



第5次中計業績見通し

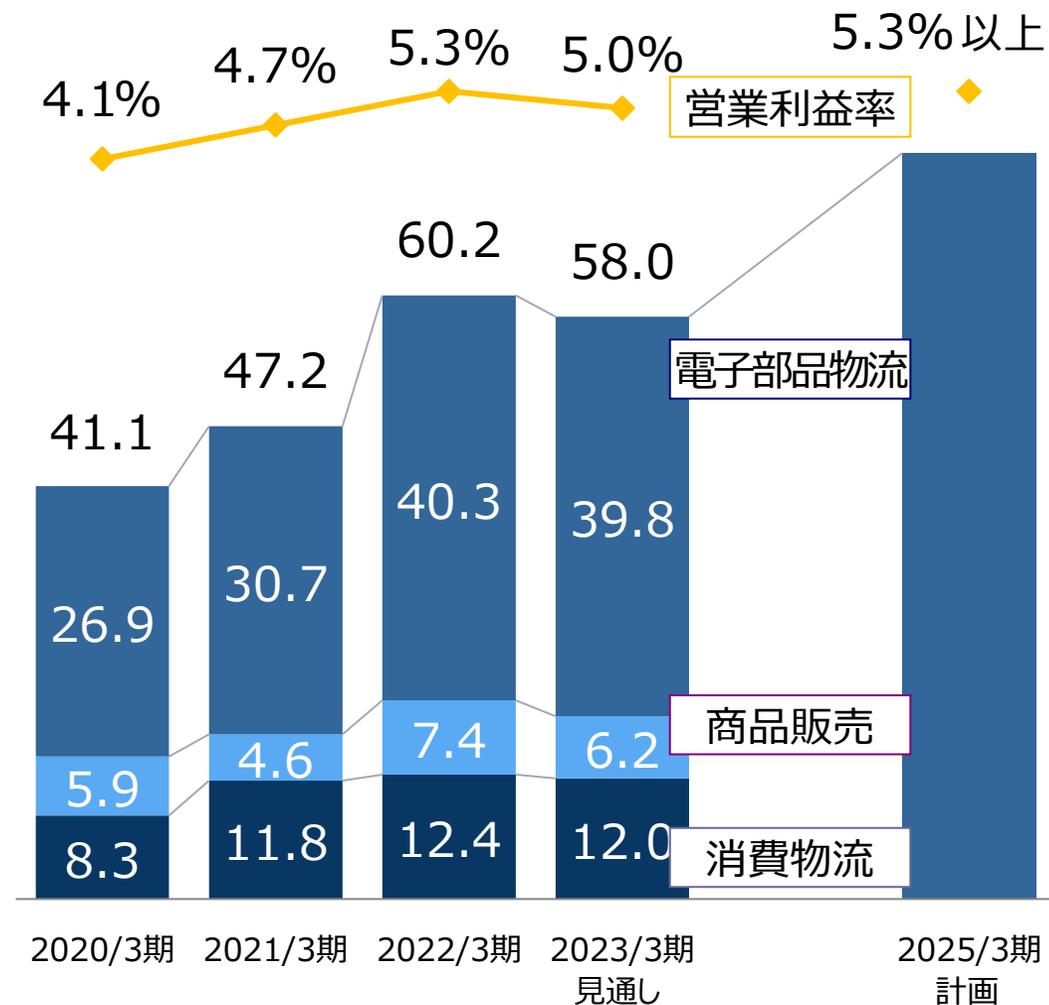
■ 売上高

(単位：億円)



■ 営業利益

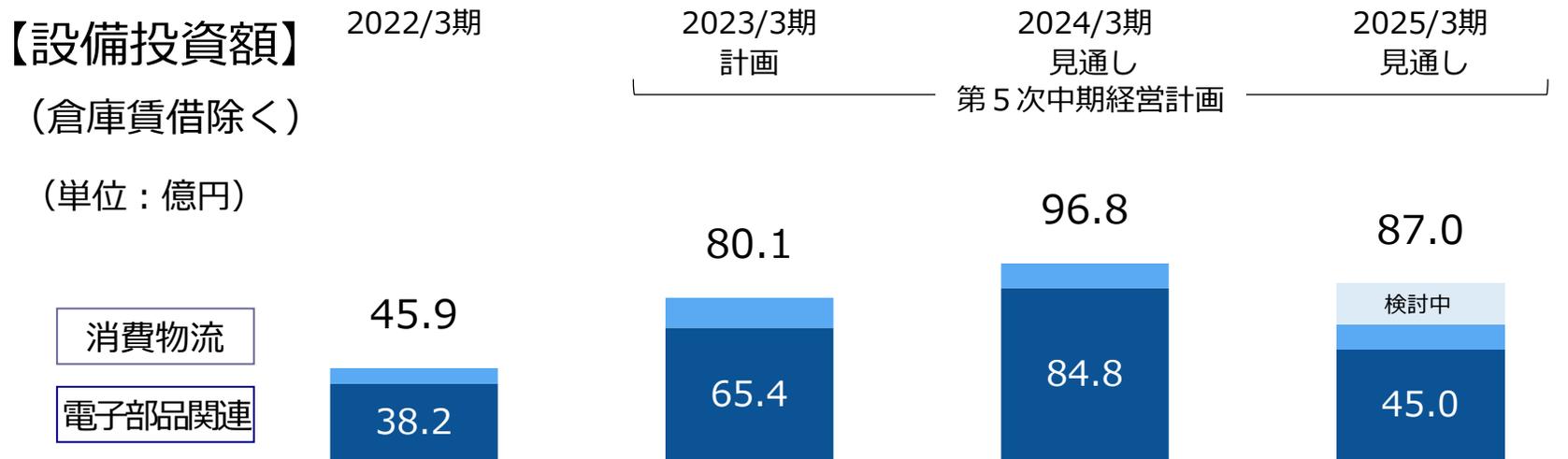
(単位：億円)



※各セグメントの売上高・営業利益は連結消去後の数値です

第5次中計投資計画

「戦略投資拡大」＝「拠点整備」＋「生産性向上」



【主案件】

横浜倉庫建設

加須2期棟建設

バンナ2期棟建設

名古屋倉庫建設

(検討中) 倉庫関連

海外拠点の新設・整備など

環境関連設備・車両の導入

自動化設備

資本業務提携など

**株主の皆様におかれましては
今後とも一層のご支援
ご鞭撻を賜りますよう
よろしくお願ひ申し上げます**

株式会社 *アリス* 物流